



### 現代・近未来の社会動向

- ・ ものづくりの現場では、「国内空洞化」、「素材知識の不足」などにより、ものづくりの質があやぶまれつつあります。一方、「天然素材への要望」は高まりつつあります。
- ・ 社会は人口減少（オーナス）動向に向かっています。2004年をピークとして日本国内の人口減少に歯止めがかからず、今後消費の大きさが縮小してくると思われます。そのため、いいもの・確かなものを少なく所有し、身に着けたいといった感覚が高まるはずです。つまり、「プレミアム感の高い商品の要望」が高まることと思われます。
- ・ また、オーガニックやエコを意識した倫理感の高い消費、つまり「エシカル・コンシューマリズム」も高まるはずです。
- ・ 高齢化とともに家庭菜園数は増加し、野菜などものづくりの喜び、いきがづくりとして植物栽培や土いじりに注目が集まっています。
- ・ 子供たちへは、コットンボールから、綿糸が作られ、それが身の回りの服になっているなど、ものづくりの基礎を教える必要があります。子供たちだけでなく、我々大人も同様です。
- ・ 農家は高齢化が進み、我々の食を担う農地は荒れ、「遊休地」や「耕作放棄地」が増加の一途です。そのため、いのししなどが作物を荒らすなど農業への被害が深刻になっています。

### 想定される社会的課題

前段に触れた社会動向においては以下の課題を抱えています。

- ・ ものづくりにおける素材知識の不足
- ・ 素材を輸入のみに傾斜しすぎて起こる為替変動、資源高騰による調達リスクの増加
- ・ ものづくりの国内空洞化と雇用不安
- ・ 都市近郊農業の弱体化と耕作放棄地増加、農業被害

### 綿花栽培と課題解決

社会的課題を解決するには、個人、団体、企業などそれぞれが「小さなことからコツコツと」行動を起こすことが重要です。

我々は綿花栽培によって上記の社会的課題を解決できるものと確信しております。

- ・ 国内で綿花栽培を行い、糸作りへの工程を「見える化」することで、繊維関係者や専門家、市民、子供たちに素材知識について実学を通じて学べる場づくりを行います
- ・ 国内で綿花栽培、綿の収穫、紡糸といった原料生産を行うことで、「綿花高騰による海外からの調達困難について一部解消」、「安心安全な原料づくりとプレミアム性の実現」

**「全国コットンサミット」報告会見に当たっての補足資料**

事務局

を行います

- ・ そうすることで、エシカル・コンシューマーへの要望に応えます
- ・ 農地に近い放棄地を管理することで、農業への被害を軽減します
- ・ また、高齢者をはじめとする様々な年代が持つ土いじりなどの生きがいつくりの場を提供します

**綿花栽培とサミットの意義**

綿花栽培者が増加しています、直近3年をみれば綿花栽培面積は約3倍以上となっています。(全国コットンサミット実行委員会による栽培者へのアンケート調査によると、2009年：2.4ha、2012年7haを超える)

そうした中、栽培者及びプロジェクトは「栽培技術の未熟や知識の不足」、「事業継続の困難性」など様々な課題や悩み、また社会的認知欲求を得たいと考えています。全国に20を超えるプロジェクトの主催者が一堂に会し、それぞれが「目指す志」、「事業の課題」などを情報交換し、切磋琢磨することがお互いの課題解決へのヒントになり、やる気を喚起し、それがひいては各地域での社会課題の解消に結実するものと考えました。

そうした場の提供、ネットワークづくりの機会が「全国コットンサミット」です。

**サミット実行委員会事務局の体制**

- ・ 全国コットンサミット実行委員会は、任意の組織です  
(今後はNPO法人設立による運営も検討中)
- ・ 現在は、大正紡績㈱に事務局を設置しています(今後はNPO設立とともに変更予定)
- ・ サミット開催に当たっては、開催地の自治体および商工団体などが一体となって各実行委員会を結成し、サミット開催にいたします
- ・ 全国コットンサミット実行委員会事務局は、本部組織に当たり、各地で開催に当たる実行委員会の補佐を行うとともに、サミット活動のブランディング、広告宣伝、情報発信を担います
- ・ 東北コットンプロジェクトに人を派遣し、被災地支援を人にて補完します

**サミットの目標・狙い**

- ・ 全国に綿花栽培を普及し、ものづくり再考、生きがいつくりを行います
- ・ 地域発信の機会を尊重し、地域を元気にします
- ・ エシカル・コンシューマリズムを満たすものづくりを目指します
- ・ 農業支援と耕作放棄地の解消に役立ちます
- ・ 東北など被災地支援を行います

「全国コットンサミット」報告会見に当たっての補足資料

事務局

サミット事務局の活動実績

\*2011年までに、全国コットンサミットの運営母体となる「きしわたの会」、「夢つむぎ会」は、1995年（平成7）から活動をする。

「きしわたの会」：岸和田市内で発足した綿花栽培を行う市民団体

構成メンバー：岸和田市民 事務局長 木村元廣

「夢つむぎ会」：きしわたの会でできた綿から繊維製品を作る企業集団

構成メンバー：辰巳織布(株)会長、大正紡績(株)近藤部長、木下織物工場、パドック(株)、(株)マハール、もめんやゆき、(有)大阪屋、(株)野村製作所、木村元廣

2011年 -----

5月 第1回「全国コットンサミット in 岸和田」開催

場所：大阪府岸和田市、動員数：700人

プログラム：コシノユマさん、近藤健一氏の対談、  
全国の栽培者の報告

6月 「東北コットンプロジェクト」 種植え参加

東北コットンプロジェクトその他技術指導、催し参加

2012年 -----

3月 サミット実行委員会事務局 報告会見 中之島公会堂（大阪市）

5月 「東北コットンプロジェクト」 種植え等 参加

東北コットンプロジェクトその他技術指導、催し参加

10月 第2回「全国コットンサミット in 境港市」開催

場所：鳥取県境港市、動員数：700人

プログラム：「東北コットンプロジェクト」の報告、  
繊維関連企業パネルディスカッション

10月 「東北コットンプロジェクト」等 収穫参加

事務局の今年度の活動予定

2013年3月 サミット実行委員会事務局 報告会見 天王寺 MIO（大阪市）

記者、市民の方への活動報告、予告、東北コットンプロジェクト報告

5月 大阪府内での種植え

「東北コットンプロジェクト」等 種植え参加

10月 第3回「全国コットンサミット in 広陵町」開催

場所：奈良県広陵町、動員数：700人（予定）

10月 大阪府内での収穫祭

「東北コットンプロジェクト」等 収穫参加

**「全国コットンサミット」報告会見に当たっての補足資料**

事務局

**東北コットンプロジェクトとの関係**

2011年開催した第1回「全国コットンサミット in 岸和田」において、栽培報告者であるタビオ越智会長がサミットメンバー、参加者への東北被災地の農地を綿花で除塩するといった呼びかえをされました。全国コットンサミットが、東北コットンプロジェクトが大きく歩みだす「起点」となっています。

(詳しくは、「第1回全国コットンサミット in 岸和田」事業報告を参照のこと、「全国コットンサミット実行委員会」Webサイトから全文ダウンロード可能)

以上

本補足資料についてのお問い合わせ

全国コットンサミット実行委員会 事務局

企画担当：松下 携帯：090-5667-8733